様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　６ 年　６ 月 １０ 日現在

機関番号：３２７１８
研究種目：若手研究(B)
研究期間：2017～2023
課題番号：１７Ｋ１３６８９

研究課題名（和文）日韓安全保障協力の形成メカニズム:非西洋型国際関係理論の理論的・実証的研究

研究課題名（英文）Security Cooperation between Japan and R.O.K. : Theoretical and Empirical Research of Non-Werstern International Theory

研究代表者
冨樫　あゆみ（TOGASHI, AYUMI）

東洋英和女学院大学・国際社会学部・准教授

研究者番号：５０７８３９６６

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　1,900,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、日本と韓国が時期により異なりつつも、「脅威」認識を共有することによって安全保障協力を形成してきたことを明らかにした。その目的は、冷戦期は共産主義に対抗するため、冷戦直後にあっては動揺するアジア太平洋秩序を維持するため、1990年代後半から今日にかけては北朝鮮にあった。併せて、日本と韓国は米国の同盟国であるため、脅威に対抗するための一次的な手段は、両国とも米国との安全保障関係の強化であるため、これまでの日韓安全保障協力は米国との同盟を円滑に機能する手段として主に用いられてきた。

研究成果の学術的意義や社会的意義
日韓間では、冷戦期においては非間接的に、冷戦後から直接的な安全保障協力が形成されてきた。一方で、「いつ」「どのような時に」「どのような条件で」日韓安全保障協力が形成されてきたのかについての研究は、この間日本の学界において十分な議論がなされてきたとは言い難い。加えて、国際関係理論の枠組みを用いた日韓関係研究、韓国研究は、国内において未だ萌芽期にある。本研究の学術的意義は、国際関係理論を用いつつ、理論研究と地域研究の融合を図ったことある。また、社会的意義は、日韓安全保障協力を通史的な視点から整理したことにある。

研究成果の概要（英文）：This study clarifies that Japan and South Korea have formed security cooperation by sharing the "threat" which has differently defined depending on the period. During the Cold War, the threat was defined as balancing to communism. In the beginning of the 1990s' The purpose of Japan-ROK security cooperation was broadly changed from maintaining the unstable Asia-Pacific order to balancing to the the threat by North Korea in the late 1990s'.
In addition, since Japan and South Korea are allies of the United States, the primary means of countering threats for both countries is to strengthen their security ties with the United States, and thus Japan-South Korea security cooperation has been used primarily as a means of ensuring the smooth functioning of the alliance with the United States.

研究分野：国際関係、安全保障

キーワード：安全保障協力　同盟

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１（共通）

１．研究開始当初の背景

日韓安全保障協力に関する先行研究は、これまで学界において外交史のアプローチから行われてきた。先行研究は、公開されている外交資料をもとに当時の日韓関係と日韓安全保障協力の存在を明らかにしたという点で重要であるものの、このような先行研究にはいくつかの課題があった。整理すると以下の 3 点である。

（１）先行研究の主な分析対象が冷戦期 のみに集中しており、特に 1965 年「韓国条項」日米合意などの特定の政治的事案を取り扱うといった断片的時期の分析に集中しており、官僚や政治家による安保対話が定例化といった実質的な日韓安全保障協力が始まった 1990 年代脱冷戦期以降と冷戦期を関連づけて分析した研究は少ない。
（２）先行研究は冷戦期の対韓経済支援が日韓安全保障協力の側面を有していたという議論に集中しており、形成メカニズムに注目していない。
（３）外交史のアプローチが主流であるため、日韓安全保障協力の形成メカニズムの構築や、今後の日韓安全保障関係を予測することができない。

本研究は、上記の課題の乗り越えを狙ったものであった。

２．研究の目的

日韓両国は 1965 年の国交樹立から今日にいたるまで安全保障協力関係を築いてきた。日韓安全保障協力の分析は日韓関係史や外交史からのアプローチが中心であり、国際関係理論の視点から協力の形成要因を構造的に分析した研究事例は少なく、日韓が安全保障協力を形成するメカニズムは不明瞭である。その一方で、西洋の国家関係を基盤とした西洋型国際関係理論を現代の日韓関係へ適応することの有効性に関する理論的・実証的研究も乏しい。
本研究は、①国際関係論の視点から冷戦期から脱冷戦期までの日韓安全保障協力の形成メカニズムを明らかにすることによって、②西洋型国際関係論を日韓関係に適応することへの有効性を検証・批判的検討を行い、③西洋型国際関係論の限界を示すことを目指したものである。

３．研究の方法
本研究は、以下の３つのプロセスを経て行った。
【１】冷戦期および冷戦後から今日にかけての日韓安保関係形成の背景を探るための資料研究
－1965年の日韓合意や1998年の日韓パートナーシップ宣言など、日韓安全保障協力における重要な政治合意を選択肢、その背景について①日米韓国会議事録、②日韓・日米・米韓外交声明文(各種会談発表文・交換文書など)③政策担当者、

政治家の回顧録などから整理した。

【２】（A）で明らかになった事実を元に仮説構成

【３】（B)までで明らかにした協力の形成要因と国際関係理論の適合性を分析する理論研究

－　【２】【３】は理論研究として、新古典的現実主義を用いた分析や先行研究に対する批判的検討を行った。

４．研究成果

本研究の学術成果は、主に論文（２稿）と学会報告（３件）である。

2017 年

論文「政権交代と日本外交安全保障政策の持続性：政治理念と日米同盟」『韓国政党学会報（韓国語)』、16 巻、pp.101-120.

2019 年

講演

Seoul National University, World Leading University Program、「インド太平洋戦略と日韓安全保障協力（韓国語)」

学会報告

国際安全保障学会学術大会、「冷戦期日韓安全保障関係における構造的要因―新古典現実主義に対する批判的検討」

2021 年

学会報告

東アジア日本研究者協議会第 5 回国際学術大会（国際学会)、「米中対立における日韓、日米韓安全保障関係のあり方」

2023 年

論文「脅威均衡戦略としての日韓・日米韓安全保障協力：脅威均衡同盟説からの考察」『現代韓国・朝鮮研究』,23 号、pp. 15-27

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計2件（うち査読付論文　1件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　1件）

１．著者名 Ayumi Togashi	４．巻 16
２．論文標題 Regime Change and the Continuity of Japanese Foreign Policy - Political Idea and U.S.-Japan - Alliance	５．発行年 2017年
３．雑誌名 Korean Party Studies Review	６．最初と最後の頁 101-120
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 冨樫あゆみ	４．巻 23
２．論文標題 脅威均衡戦略としての日韓・日米韓安全保障協力：脅威均衡同盟説からの考察	５．発行年 2023年
３．雑誌名 現代韓国朝鮮研究	６．最初と最後の頁 15-27
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

〔学会発表〕　計8件（うち招待講演　2件／うち国際学会　4件）

１．発表者名 冨樫あゆみ
２．発表標題 米中対立における日韓、日米韓安全保障関係のあり方
３．学会等名 東アジア日本研究者協議会第5回国際学術大会（国際学会）
４．発表年 2021年

１．発表者名 冨樫あゆみ
２．発表標題 冷戦期日韓安全保障関係における構造的要因―新古典現実主義に対する批判的検討
３．学会等名 国際安全保障学会
４．発表年 2019年

１．発表者名 冨樫あゆみ
２．発表標題 インド太平洋戦略と日本、そして韓国（韓国語）
３．学会等名 Seoul National University, World Leading University Program（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 冨樫あゆみ
２．発表標題 日韓安全保障協力の検証
３．学会等名 現代日本学会
４．発表年 2017年

１．発表者名 冨樫あゆみ
２．発表標題 合評会『日韓安全保障協力の検証』
３．学会等名 冷戦研究会（招待講演）
４．発表年 2017年

〔図書〕　計1件

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関